

# 市民病院だより

## 摂食・嚥下障害について

リハビリ科 作業療法士

縄手 雪恵

摂食・嚥下障害とは、口から食へる機能の障害のことです。私たちは普段、意識はしていませんが、食べ物を目やにおいで認識し、口まで運び、口の中に入れて噛み、飲み込むことで、食物や水分を摂取しています。

摂食・嚥下障害とはこの一連の流れが何らかの原因で正常に機能しなくなった状態をいいます。

聞きなれない言葉かもしれませんが、摂食・嚥下障害は実は身近で深刻な問題です。

高齢者になればなるほど、摂食・嚥下障害をかかえる危険性は高くなります。原因として最も多いのが脳梗塞、脳出血などの脳血管障害ですが、高齢者においては、加齢による筋力低下、

予備能力の低下を招き、摂食・嚥下障害を発症しやすくなります。超高齢社会に突入した日本では、摂食・嚥下障害の予備軍ともいえる人々が急増していることとなります。

お正月になると、高齢者が、普段食べなれていないお餅をつまらせるのは、予備能力の低下を意味しています。

### 摂食・嚥下障害になった場合の代表的な問題

- ご飯や水分がうまく食べられないことによる栄養状態の低下（低栄養・脱水）

- 気道に食べ物が入ってしまう肺炎になってしまう（誤嚥性肺炎）、窒息する

- 食べる楽しみの低下や喪失が挙げられます。

これらは、生活の質（Quality of Life）に深く関わる問題で

す。患者さんが口から食事ができるようになるために、正しい評価のもと、効果的な治療・リハビリテーションを行い、正しい食事方法（患者さんに適した姿勢と動作方法や環境設定、食物形態の調節など）を選択することが大切になってきます。

摂食・嚥下障害に対する治療・訓練は、主にリハビリテーションと外科的治療法に分けられます。

### リハビリテーション

- 間接訓練 飲食物を用いないで摂食・嚥下に関わる器官の働きを改善させることを目的とします。
- 直接訓練 飲食物を用いて摂食・嚥下の上達を図ることを目的とします。

### 外科的治療法

- ① 喉頭挙上術
- ② 舌骨下筋切断術
- ③ 輪状咽頭筋切断術
- ④ 声門閉鎖術
- ⑤ 喉頭気管分離術
- ⑥ 喉頭摘出術
- ⑦ 胃ろう造設術 など

### 摂食・嚥下障害が疑われる症状

- 食事中や食事以外の場面でよくむせる、咳込む
- 飲み込みにくい、食物がのどの奥でつまる感じがする
- 飲み込んだ後も、口腔内に食物が残っている
- そしゃく力低下や歯科的問題で噛まなくてよいものを好む（麺など）
- 味や温度などの感覚がわからない
- 飲み込むときに口やのどが痛む
- 飲食物が鼻からもれる
- 食べたものが口に逆流する
- 食物をぼろぼろこぼす
- 食べるとすぐ疲れて、全部食べられない
- 食事に時間がかかる
- 水分をとりにくくならない（尿量が減った）
- 発熱を繰り返す
- 体重が減少してきた

これらの症状は、病気で体が弱っている人や、ご高齢の人、また、脳卒中などの後遺症がある患者さん、認知機能が低下している人などでみられることがあり、摂食・嚥下障害の可能性が考えられます。ご家族や介護者はこれらの症状を見逃さないように注意しましょう。

## お知らせ

「まむし抗毒素」の保有医療機関の案内を広報『さくら』7月号（17ページ）に掲載していましたが、都合により保有医療機関を取り下げました。

【問合せ】 小城市民病院 ☎ 73・2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>